

第 24 回警察庁会計業務検討会議概要

〔案件 1〕 私服用ハッチバッグ型無線機（1, 200cc 級）

【委員】 1 回目が不落だったということで、これは、予定価格が低かったということか。

【回答】 そのとおり。原材料の高騰やベース車のモデルチェンジに伴い、衝突防止レーダーや自動ブレーキ搭載と先進安全技術が標準装備されたこと、さらには、タイヤホイールがこれまではスチールだったところ、アルミ化したことにより予想を上回る価格となったと考えている。

【委員】 2 者入札したうちの 1 者は、ベース車両が A 社だと思うが、A 社の方が自社で車両を製造している分、有利なように思われるが、なぜ、B 社の方が残ったのか、どこで価格差がついたと考えられるか。

【回答】 車両を製造販売する A 社が、直接架装すればトータル的に安くなると思うが、途中で A 社が入札を辞退した理由は承知していない。

ただ、技術的なものではなくそれぞれの車両メーカーの製造ラインに限界があり、製造ラインが新たに設置できないという理由で架装会社である B 社になったものと考えている。

【委員】 この車両でなければいけない理由、他のメーカーのものではなく A 社の車両にした理由は何かあるのか。

【回答】 どのメーカーでも参加できるような仕様書になっている。ただし、この度の A 社が販売する車両は、他の車両と比べて 30 万円以上ベース車両が安く、それに架装料を加算すると各メーカーとも手を出せなかったのではないかと考えている。

【委員】 結構な台数を捌かなければいけないということで、他社でこうした特殊車両を扱っている業者で安いところをたくさん集めて小規模なら対応できる業者を増やすという検討はされたのか。

【回答】 現在の入札に参加している大手メーカーに車種を分けるなどといった対応ができないかについて確認したが、各メーカー厳格な生産管理をしており、追加の生産は厳しいということでした。

今後は、委員ご指摘のように特殊車両を扱っている業者に対しても分散した発注ができるか検討したい。

〔案件 2〕 ライブスキャナ

【委員】 このライブスキャナの需要は警察だけなのか。

【回答】 主に警察が使っていると思っているが、他に使っているところがあるかは、

承知していない。

【委員】 12 者に説明書を交付して、そのうち 1 者だけが応札しているが、落札事業者が製造している機材であり、他の 11 者は落札事業者から購入しなければならないので諦めたのか。

【回答】 応札可能と考える業者として、実績のある業者 2 者と新規の業者 2 者に声かけを行ったが結果的に 1 者になってしまった。落札事業者は、今回初めて契約に至ったものである。

【委員】 応札可能と考えた基準は何だったのか。

【回答】 今まで実績のある業者のほか、米国や欧州において同じような機材を製造し、（官公庁）納めている業者である。

【委員】 他の 3 者、特に前回の契約業者が応札しなかった理由は何か。

【回答】 開札後に聴取したところ、社内の調整がつかなかった、社内手続が入札日までに間に合わなかった、他の入札案件を抱えており、そちらを優先したという話を聞いている。

【委員】 タイミングの問題があるように感じた。あらかじめ調達が分かっているのであれば、公告を早めに出すことについての検討もお願いしたい。

【回答】 承知した。

〔案件 3〕 デジタル映像モバイル伝送システム（2 型）用閉域網回線サービス

【委員】 説明書を交付した 11 者のうち電気通信事業者は何者あったのか

【回答】 電気通信事業者は 4 社である。

【委員】 4 者が入札に参加してもよかった気もするが、なぜ 1 者だけだったと考えているか。

【回答】 入札に参加しなかった事業者に対して理由を個別に聞き取りしたところ、ハードと回線サービスを合わせた提供をメインとしているといったもののほか、採算が取れないことを理由に入札を見送ったという意見があった。

【委員】 回線サービスのみの提供はしないという理由もあるようだが、今後はハードと回線サービスをセットで契約するといった検討はするのか。

【回答】 セットであれば応札できるといったアンケート結果もあるので、仕様書の内容や入札参加の障害となる条件を付していないかを引き続き検討したい。

【委員】 ハードと回線サービスをセットで契約した場合はいくらで、分けた場合だといくらかということを分析的に考えて、分けた方が安いということで契約するのであればいいが、そういったところも踏まえて検討いただきたい。

【回答】 承知した。

〔案件４〕電子交換機（E74i）（Ⅳ）（１）外 59 点

【委員】 過去に実施した同案件の入札に参加していたものの、本件入札には参加しなかった事業者が資材価格の高騰等による価格競争力の低下に加え、過去の落札実績を考慮した結果、社の方針として入札への参加を見送ったとのことだが、落札実績を考慮したとは具体的にはどういうことか。

【回答】 今回も含めて直近３年間で３回調達を実施しているところ、今回を除いた２回については、本件落札事業者のほかにもう１者入札に参加していただいております、結果的にどの案件についても本件落札事業者が落札をしていることを踏まえたものと考えている。

【委員】 14 者に資料を交付したにも関わらず１者しか応札しなかったというところで、資材価格の高騰等により予算が実態に合わなくなっていることも考えられる。今後、予算が適切かどうかというところも検討いただきたい。

【回答】 承知した。

〔案件５〕防犯カメラの賃貸借等

【委員】 新品をつけなければならないということではなく、中古品でも良い契約なのか。

【回答】 仕様にはその旨は記載していないので、仕様を満たしていれば新品でも中古品でも構わない。

【委員】 落札率が低調というところが気になっているが、随意契約の場合、見積りを徴取して予算の中で一番安かったところを選定するのか。

【回答】 今回の予定価格については、短期間での設置や保守管理等を含んでいた比較可能な市場価格がなかったため、徴取した見積りを基に積算した。

その後、改めて見積りを徴取したところ、さらにそれを下回った金額が提示された。

【委員】 見積りには何か細かい積算のようなものはあるのか。最初の見積りと実際の契約とで、どの部分が違ってきたのか書類から分かるのか。

【回答】 仕様書を具体的に読み解いていく中で、必要な性能の防犯カメラというところを見て、ギリギリのところ機種を選定したりして当初の見積額より防犯カメラの単価そのものが若干下がっているというところが、全体 400 台に大きく影響があったのではないかと考えている。

【委員】 当初の見積額と比較して、あまりにも価格差が大きい場合には変更になった理由等も聴取していただきたい

【回答】 承知した。

〔案件6〕 刑事手続関連業務プログラム

【委員】 ベンダーロックインがないか、特定のソフトウェアを使っていないかとか警察庁内部で確認しているのか。

【回答】 警察庁内部の幹部、警察庁 PMO といった客観性を持った人間が定期的に確認している。

【委員】 事業者からの提案でベンダーロックイン回避のために工夫されていると思う部分はあるか。

【回答】 モジュール化の部分やオープン化された開発環境を使って開発するなどがある。

【委員】 保守契約は別発注なのか。また、保守は他社でもできるよう考慮しているのか。

【回答】 開発の途中か終盤頃から別発注し、他社でも保守できるよう配慮している。

委員講評

【委員】 諸物価が高騰している中で何が適切な予定価格なのかというものを判断することが難しい。また、大規模なシステムなどについて、ベンダーロックインの懸念が相変わらず残っている。そういう様々な課題があるが、引き続き、効率的な調達に向かって知恵を絞っていただきたい。

【委員】 全般的に資料を取る事業者に比べて、応札する事業者が少ないと感じる。例えば、調達規模を小分けにすることで小さい会社でも対応できるようにするといった調達の方法を根本的に見直しし、応札できる会社の数を増やすといったことも含めて調達の方法を検討いただきたい。

【委員】 警察庁は非常に低価格で合理的な調達ができているものが多いが、資材価格高騰の話があったように受注する業者が無理をして受けることがないように配慮することもこれから大切になってくるのでいろいろな工夫をしていただきたい。